

市仏連会報

発行所

横浜市中区大平町96

光明山西有寺内

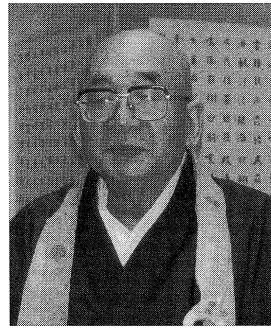
横浜市仏教連合会

電話(045)661-0166

市仏連名譽会長に

大道晃仙禅師ご就任

平成十四年十月十五日に当会名譽会長であられた大本山総持寺貫



主板橋興宗禅師がご退任され、同十七日に大道晃仙新貫主が晋山された。慣例により大道新貫主が市仏連の名譽会長にご就任される。

十二月十日、前日の雪が少し残る総持寺様を横山敬明県仏会長、都築哲信市仏連会長、玄野孝善副会長、林田真成専務理事、備前会報担当の五師で訪ね、ご就任委嘱



状をお渡しした。柴雲台の跳龍の間で大道禅師にお目にかかり、ご承諾への御礼を申し上げ、歓談した。ご染筆の掛軸を頂戴して侍局を後にした。

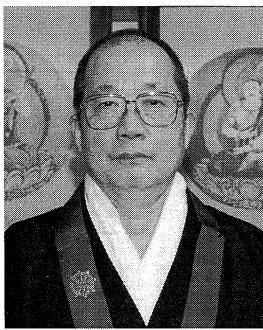
ご挨拶

大衆に理解される寺院を目指して

横浜市仏教連合会

会長 都 築 哲 信

平成も十五年を迎えて早くも大正と同じ年月を経過してしまいま



した。昭和の御代は戦争・終戦と軍事一色の中にその後は敗戦の足枷を四十年以上も架けたまま、激動の時代を、過ぎてきました。平成の時代を迎えこれからは良い時代になるかと思えば、日本の景気は奈落の底に向かって真つ逆様です。二十世紀も終り二十一世紀になれば良くなるだろうと思う中に、

お知らせ

◎春の仏跡参拝旅行案内
期日 平成15年6月9日(月)
旅程 西新井大師(総持寺)―
本土寺―野田醤油工場―
旅費 九千円(申込メ切5月10日)
◎市仏連合会総会
日時 15年5月23日(金)午後二時
会場 中区西有寺

早くも二〇〇三年へと新しいスタートを切りました。

今にも戦争が起こりそうな世界情勢、今にも破産しそうな日本の経済、どうなるだろうか日本の政治等、こうした事に気を馳せている間に、我々仏教会を取り巻く環境に大きな変動がおきています。それは世の中の「寺離れ」の進行です。ご不幸があつても読経を必要としない人々の増加です。葬儀社の扱う中で何割かは読経なしで火葬だけで終えてしまう場合があるようです。このような事は菩提寺を持つ檀信徒には殆ど見られませんが、

発になると、いつの間にか自分の足元や心の中に目を向けることが疎かになり、これが「寺離れ」の一因ともなっています。
朝日新聞の青鉛筆蘭に浄土真宗本願寺派で「お寺へ行こう」と言うマンガの小冊子を出版したそうです。内容は「お寺って怖い」から始まり「仏さまって何する人?」「お勤めって?」などの基本的な質問に若いお坊さんがやさしく答えて解ってもらう内容になっているそうです。良い所に着目したユニークな企画だと思います。
我々僧侶も自分の宗派のことについては理解していても、宗派を異にするとならない事が沢山あります。いわんや、一般社会の人々では解らないことが多く寺院側とは考え方が益々広がって行きます。仏教連合会はそうした事を解決する場でもあり、大衆の求めるものを読み取って行動することが我々に課せられた使命と存じます。今年も宜しくご指導ご協力の程をお願い申し上げます。

―涅槃会担当区予定―

- 第29回 平成16年 都筑区
- 第30回 平成17年 中区
- 第31回 平成18年 港北区
- 第32回 平成19年 金沢区
- 第33回 平成20年 南・港南区

―泉慰靈堂出仕当番表―

- 平成15年4月7日(月)都筑区
- 平成15年6月5日(休)緑・青葉区
- 平成15年10月6日(月)南・港南区
- 平成15年11月5日(休)神奈川区
- 平成16年4月(未定)西区
- 平成16年6月(未定)磯子区

第二十八回涅槃会厳修 於般若院・栄区仏教会担当

平成十五年二月十四日（金・友引）に市仏連主催、市釈尊奉讃会協賛の第二十八回涅槃会が当番区栄区仏教会の飯島町二四九番地の高野山真言宗般若院（星野英秀師）で営まれた。般若院様は「飯島山般若院梵篋寺」と号す。鎌倉道の豊田村の宮の前に、お不動様を祀るお堂が建立されたのを前身として、今から六百数十年の元享元年五月に、権大僧都祐戒上人により開創された真言宗の古刹である。弘法大師信仰を教化広宣し、現代に生きる仏の道を求める場として、寺を地域に機能させたいと星野師は日々活動されている。

当日は天気良く、暖かく、白梅芳香の会場に僧檀およそ二〇〇名余りが集った。十一時に関係諸役が集合し準備と現場習礼を行う。昼食は般若院寺族と女性会員の心づくしのおにぎりやマンダラけんちん汁に漬物をいただいた。三通

三下の集会の半鐘が鳴り、本堂内の椅子席に参拝者が腰かけて、導師・職衆の入堂を待つ。般若院様と密蔵院様のご詠歌講の二十五名が「いろは歌」を唱える中を、栄区仏教会の職衆八名と都築市仏連会長導師がご入堂になる。玄野孝善市仏連副会長が開式の言葉を述べて午後一時半に法要が始まった。司会進行役は林田眞成市仏連専務理事である。一同三礼。三帰依文の唱和。啓白文の奉誦（都築哲信導師独唱）。脇導師・栄区仏教会長の星野英秀師、同副会長の菅原紹雄師。読経、経頭・星野脇導師で観音経普門品偈、舍利礼文三遍を全員で唱和し、この間に順次回し焼香をする。御詠歌（世尊）奉詠（般若院・密蔵院様詠歌講員、回向・願わくは此の功德を以つて云々と訓読で唱和。一同三礼。導師・職衆退堂。法要終了は午後二時。休憩の間にピーエス観光真川



氏が市仏連主催の六月九日の仏蹟参拝のコースの説明と案内を申した。

二時十五分より式典開始。都築市仏連会長、美濃口久義釈尊奉讃会副会長、横山敏明神奈川県仏教会会長、星野栄区仏教会会長が各々ご挨拶を申された。

二時三十五分より三時十五分まで講師の鈴木省訓師・栄区玉泉寺臨濟宗円覚寺派玉泉寺住職の講演「数珠の功德」についてを拝聴した。流れるような話題の展開と匠みな話術に歓声や笑い声があがった。

程木徳明釈尊奉讃会事務局長の入会のお知らせがあった。

川上敬吾市仏連副会長の閉会のことは「あたたかい心の方ばかりで、暖房なしでも御堂があたたかった。よくお語り下さいました。般若院様関係者、栄区仏教会一同様、般若会担当、誠にお世話になりました。ご苦労さまでした。ありがとうございます。栄区仏

の御供物の鳩サプレーと手首念珠を記念のお土産品として、お持ち帰り下さい」。

般若院様から、紙コップに入ったお汁粉が参拝者全員に振る舞われた。ご接待を受け、温かい気持ちになり、家路につかれた。午後三時四十分頃だった。

四時頃、境内に隣接した、ちよつ

講演要旨 「数珠の功德」

栄区玉泉寺住職 鈴木省訓師

お釈迦様のご供養は年に三回あります。二月が涅槃会で亡くなられた日、四月が誕生日（降誕会）で花祭り。そして、十二月の成道会はお悟りを開かれた日です。これを三仏忌といえます。お釈迦様の教えの根本は何かといえます、皆さんの苦しみを取り除き、幸せな日々を送るための教えであるといえます。

人間は、不安になると何かにすがって安心を得ようとするものです。みなさんは、どうですか。この不安が実は煩惱の大元となるといえるのです。悩みの元は、物に執着したり欲望が満足できないために起こるものです。ある人はお金であったり、地位であったり、異性であったりと、その元をただせばすべて自分の欲望から起きたものなのです。近年、保険金を目当てに殺人を犯したり何か注意を受けてカッとして人を殺したり、すべて自分の思い通りにしたいという欲望の現れであります。さらには、生命の尊さを教えなかつた

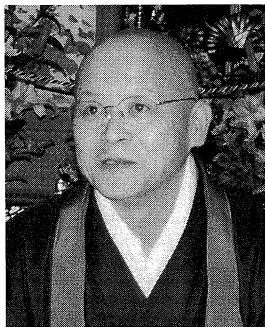
と高台にある三島神社内の町内会館で、反省会、慰労の席が催され、市仏連役員、各区仏教会の会長、奉讃会役員、栄区仏諸師、般若院総代、世話人、女性檀信徒、寺院らの関係者が共に会食し、楽しい語らいで時を過した。次回の当番区仏の都築区仏教会長が挨拶をされたところで、お開きとなった。

家庭教育の結果であると私は考えています。学校教育ではありません。なんとと言っても家庭教育です。自分の生命が、どれほど多くの先祖の生命を受けて今日ここにいるのかをしっかりと教えるべきであります。

私たちには、両親がいます。その両親にもまた、それぞれ両親がいます。百年で四代といえます。江戸末期まで戻ると二八八人、ただかたか二百年で二八八人の生命を受け継いでいるのです。今は二千年にわたる何人かの人々の生命をなげているのでしょうか。その内の一人がいなくなると、現在の自分はいないのです。今ここにいる自分が、どれほど不思議な縁によって結ばれているかと言うことですね。お墓参りなどの時に先祖の話をし、どれほど多くの先祖の生命を受け継いできたかを教え、生命の尊さを教えるのが親の勤めであり、先祖となる皆さんの義務であると思っております。

生まれた幼子は、ただ理由もな

くかわいいものです。それが、成長して次第に智慧が付いてくる親の思うようにならなくなりまして、そこで、育てることの苦勞が始まるのです。自分が親にさせた苦勞を又自分がするのです。因果は巡ると言うことです。「幼子の次第



次第に智慧つきて、仏と遠くなるぞ悲しき」と、歌われたように、成長とともに欲望が出てくるので

その欲望を抑える道具として、実は皆さんがお寺参り、法事、葬儀の時などに持っている数珠が使われたのです。和尚さんたちが持っている数珠は、百八つの粒でできています。百八とはたくさんの意味であるとして頂ければよいと思います。このたくさんさんの欲望、煩惱を鎮めるために持つものが数珠であります。

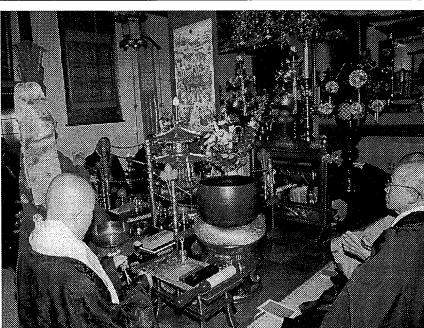
インドでは、鉢塞莫（ハソクマク）といい、中国の梁の時代六世紀頃に数珠と呼ぶようになりしました。本来は、修行のできていないものを導く道具として使われていたのです。

数珠について、お釈迦様が説かれたという『木間子経』（モツカンス経、モクゲンジ経）に次のよ

うな話があります。昔、インドの小国の国王に波流梨（ハリリ）という王様がいました。ある時、お釈迦様に次のような質問をした。自分の国は大国に隣接する小国で、毎年、穀物の取れ高も決して豊かではなく、疫病もあり民衆も窮乏しており困っている状態である。そのため、王である自分の心には安らぎがない。仏の教えは、非常に深くまた広大であると聞く。その深淵で広大な教えを学び尽くすことなどできない。そこで、一番重要な、また大切な所を教えて頂きたい。その教えを学べば、自分の心は落ち着くであろう。どうか、心の落ち着く方法を教えて頂きたい」と懇願したのである。すると釈尊は、「おまえの悩みはすべて煩惱のなせるわざである。つまり、煩惱によつてすべての苦しみが起こるのである。その煩惱をなくすには、むくろの実（ムクロジ科の落葉高木の実）を百八個集め、それに穴をあけて糸を通し輪にして身につけて、常に、仏・法・僧に帰依し念じて実践すれば、身も心も乱れず、天上界に生まれ、常に業し果報を受けることができる」といわれた。そこで、王は実践し安心を得たのである。つまり、数珠は、安心を得る為の道具であるというのである。では、この心安らぐ数珠は、何で作るのがいいのでしょうか。数珠の材質について『数珠功德経』には、鉄で作ると

きはこの実で作るとよいと教えています。さらに、蓮の実では一万倍、インドラキヤンシャは百万倍、ウロドラキヤンシャで千万倍、水晶は萬々倍、菩提樹は無量の福を得るといいます。菩提樹の実がなぜいいのでしょうか。一つは、お釈迦様が悟りを開いたのがこの菩提樹の木の下であるからというのです。それと、もう一つは、次のような話があるからです。

お釈迦様は菩提樹のもとで悟りを開かれ、皆それぞれ仏さまと同じ本質、つまり仏性を持っているという教えを広めていかれましたが、その教えを信じない男がいて、そのような悟りなど無いといってお釈迦様を誹謗したのである。その男の子供が、あるとき殴り殺され



てしまった。そこで、その男は次のような思いを持った。「自分のかわいい子供が殺されて自分の心は邪心に満ちている。仏の教えなど、本当に信じるに足る教えなのであろうか。仏の教えは、皆がす

ばらしいというが、では、仏にどのような力があるのか。そして、その優れた仏は、菩提樹の木の下で悟りを開かれたという。そうであるならば、この菩提樹の木は靈驗あらたかであろう。ならば、今殺された自分の子供が生き返ることでもできるであろう」と。そして、七日間菩提樹の木の下に寝かせ仏名を唱え続けた。すると、七日目に生き返った。そこで、父親は仏教に帰依したというのです。菩提樹の木を延命樹というのは、ここにそのいわれがあるのです。

この数珠は、大きな玉を母珠といい、小さいのを記子といえます。玉の数は、百八個、あるいは五十四、四十二、二十一、十八個（六分の一）と様々です。さらに、身につけているならば、何粒でもよいと云うのである。仏教のよいところは、このようなおおらかさです。数珠は、煩惱を抑え我欲等の欲望を鎮めるための道具ですから、常に身につけて延命を祈り、欲を押さえて足ることを知るとい

う満足の生涯を送るべきなのです。仏教経典の中で、もっとも古いものに、法句経（ダンマパダ）というものがあります。お釈迦様が、そのなかで、わすらいなきは第一の利、足るを知ることは第一の富、煩悩を持つことは第一の親族と言っています。今日、此処に自分がいるのは先祖のおかげであり、その先祖から受けたこの命を守りつなげることが、一番の幸福なのです。どうぞ、先祖に感謝し、丁寧に数珠をもってお焼香をし、ご供養



をして頂きたいと思ひます。私は、お年を召してきてすべし事は、子孫に伝えるべき事を伝えるということであると思つています。よくお年寄りが、もう年寄りだから口出ししまいといわれる人がいますが、年寄りの嫌われない方法をお教えしましょう。江戸時代の仙涯義梵（せんがいぎぼん）という方が、『老人六歌仙』という歌を書かれています。

①しわがよる、ほくろがでる、腰曲る、頭が禿げる、ひげ白くなる
②手はふるう、足はひよろつく、歯は抜ける、耳は聞こえず、目はうとくなる
③身に添うは、頭巾、襟巻き、杖、めがね、たんば、温石、しゅびん、孫の手
④聞ききたがる、死にともながる、寂しがる、心はまがる、欲深になる
⑤くどくなる、気短になる、ぐちになる、出しやばりたがる、世話やきたがる
⑥またしても、同じ話に孫ほめる、達者自慢に人はいやがる
後半の三種の歌を理解して、かわいいお年寄りになって、日本の伝統それぞれの家風を伝えて頂きたいと思つております。

横浜市仏教連合会監事
浄土宗宝心寺住職

丸 地 良 信

〒245-0016 泉区和泉町三一八九三
電話八〇二一三一八

横浜市仏教連合会監事
真言宗智山派東漸寺住職

森 岡 隆 冲

〒230-0041 鶴見区潮田町三一四四一二
電話五〇一―二三八八

横浜市仏教連合会会計
浄土宗浄念寺住職

橋 下 賢 明

〒234-0056 港南区野庭町一八四三三
電話八四二一七二八八

横浜市仏教連合会時局対策委員長
日蓮宗大圓寺住職

佐 藤 功 岳

〒231-0859 中区大平町九九四
電話六四一―四九三三

横浜市仏教連合会専務理事
浄土宗見光寺住職

林 田 眞 成

〒240-0004 保土ヶ谷区岩間町二―一四〇
電話三三一―〇六〇七

横浜市仏教連合会会報担当
真言宗豊山派西福寺住職

備 前 恭 忍

〒246-0037 瀬谷区橋戸三―二一―二
電話三〇一―六一三四

横浜市仏教連合会会報担当
曹洞宗東泉寺住職

関 水 俊 道

〒245-0017 泉区下飯田町七四三
電話八〇二一八〇九七

横浜市仏教連合会顧問弁護士

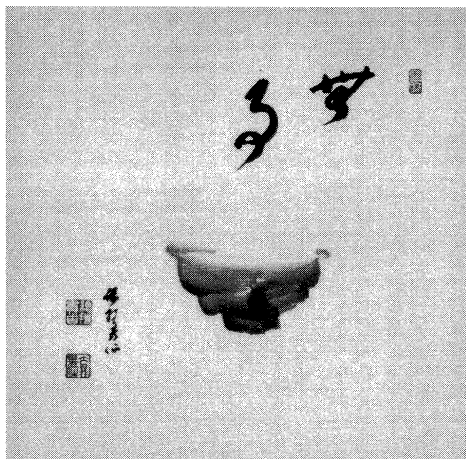
遠 藤 隆 也

〒221-0022 (自 宅) 神奈川区白幡上町一八四
〒110-0015 (事務所) 台東区東上野二―一八―七
電話〇三―八三―二八二九

横浜市仏教連合会御用達
(株)ビーエヌ観光神奈川社長

真 川 明

〒240-0022 保土ヶ谷区西久保町一―四
公園ハイツ二―一八
電話三三四―三四〇〇



横浜市釈尊奉讃会事務局長
曹洞宗東照寺東堂

程 木 徳 明

〒223-0053 港北区綱島西一―十三―十五
電話 五三一―一七八三

神奈川県仏教会会長
横浜市仏教連合会顧問
曹洞宗西有寺住職

横 山 敏 明

〒231-0859 中区大平町九六
電話 六六一―〇一六六

横浜市仏教連合会会長
法華宗陣門流勸行寺住職

都 築 哲 信

〒220-0002 西区南軽井沢九
電話 三二一―三三五七

横浜市仏教連合会副会長
曹洞宗長昌寺住職

玄 野 孝 善

〒241-0822 旭区さちが丘五九
電話 三九一―一三七九

横浜市仏教連合会副会長
鶴見区仏教会長

川 上 敬 吾

〒230-0077 鶴見区東寺尾一―一八―一
電話 五七一―一七〇一

臨済宗建長寺派松蔭寺住職

横浜市仏教連合会常務理事
神奈川県仏教会長
曹洞宗本覚寺住職

守 長 尚 文

〒221-0057 神奈川区高島台一―二
電話 三二二―〇一九一

横浜市仏教連合会常務理事
栄区仏教会長
高野山真言宗般若院住職

星 野 英 秀

〒244-0842 栄区飯島町二―一四九
電話 八九一―一七〇一

横浜市仏教連合会常務理事
戸塚区仏教会長
浄土宗圓福寺住職

福 田 俊 光

〒244-0813 戸塚区舞岡町三三六
電話 八二二―一八四三八

横浜市仏教連合会常務理事
都筑区仏教会長

山 本 信 行

〒224-0053 都筑区池辺町二八二七
電話 九四一―一三六七

高野山真言宗長王寺住職

横浜市仏教連合会常務理事
南・港南区仏教会長
曹洞宗興禅寺住職

市 川 智 彬

〒232-0007 南区清水ヶ丘二二五
電話 二三一―七五九〇

横浜市仏教連合会常務理事
磯子区仏教会長
高野山真言宗大聖院住職

鷺 雄 興 勝

〒235-0055 磯子区東町六一―二〇
電話 七五一―〇六七二

横浜市仏教連合会常務理事
栄区仏教会副会長
真宗本願寺派長光寺住職

菅 原 紹 雄

〒247-0007 栄区小菅ヶ谷四―一―二七
電話 八九一―四五六六

秋の仏跡参拝旅行 〜静岡・名古屋・長野方面〜

十一月十九日、今日は横浜市仏教連合会恒例のおまわり旅行の日で朝七時天理ビル前を三五名の善男善女を乗せたバスが発車した。

天候に恵まれ一路、東名高速をひた走る。足柄サーピスエリアで一休みし、浜松西インターをおり臨済宗「方広寺」へと向かう。

「奥山方広寺」に十一時半到着、都築会長を導師として全員で般若心経をあげ、続いて会長の挨拶となる。「みなさん今日は朝早くからおいでいただきまことにありがとうございます」といふ。仏跡参拝旅行も回を重ねること春秋で三十回を越えました。各宗派が一丸となって仲良く行くこと、これが仏跡参拝旅行の趣旨であります。これからもお仲間をお誘いしてぜひご参加いただきますように宜しくお願いいたします」と挨拶をされた。

続いて方広寺住職のお話があった。方広寺は建徳二年（一三七一年）醍醐天皇の皇子無文元選禪師によって開創された寺で深奥山方広萬寿寺といえます。六十ヘクタールの境内には、本堂半僧坊真殿、三重の塔など六十余棟の伽藍を備えた古刹であります。

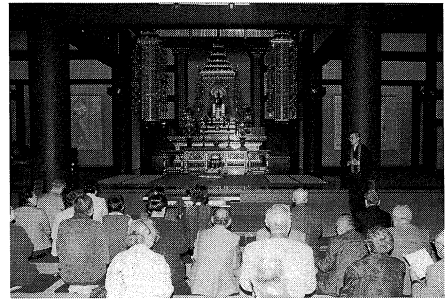
ご開山様が中国各地を巡拝し帰国される海上で難破の危機にあり半僧坊のお力によって海難を免れたという故事に因んで多くの人々が、厄除け、商売繁盛等の祈願所として全国から参詣が絶えませんが、説明がありました。

おなかもすいて「きじ亭」で昼食、雉の煮込みうどんに舌鼓をうちずぐ近くの「竜ヶ岩洞」を見学した。ここは、二億五千万年もの間眠り続けた巨匠で、延長一千メートルにも及ぶ東海地方最大級の鍾乳洞である。ここは戸田貞雄氏の理解をえて一九八一年六月より洞窟愛好家の手掘により次々と難所を突破し、遂には地底の大滝黄金の大滝を発見した。中は電灯に照らされた美しい鍾乳石を見ることができた。

午後二時二十分竜ヶ岩洞を後にして、新しくできた「オレンジライン」を通り三ヶ日ミカンを車窓



方広寺



日泰寺

に「本興寺」へと向かった。本興寺は会長の勸行寺と同宗で会長のお骨折りがあつた。一行は本堂に参拝し、記念写真を撮影、少々疲れきみではあるが、皆、よそ行きのいい顔をした。その後、客殿で般若心経をお唱えし、ご住職のお話しに聞き入った。

当山は日蓮聖人を宗祖と仰ぐ法華宗本山本成寺の別院であります。昔は真言宗に属していましたが、永徳三年日蓮聖人の教化によって改宗し、常霊山本興寺と改めました。戦国時代には今川氏をはじめ多くの豪族の外護を受け、中でも文明年間三河国西ノ郡の城主鶴殿氏、をはじめ多くの人々に帰依をいただき東海地方の布教の拠点となりました。江戸時代には徳川家康から御朱印地を受け十萬石の格式をもち大いに発展を遂げました。寺域は二万六千坪を有し三方を山に囲まれ春は桜、みやまつつじ、秋はもみじと四季おりおりと趣があり国の重要文化財の本堂を

はじめ客殿、大書院、惣門等があり貴重な文化財を保有しています。寺宝として、「国宝法華経曼陀羅」「谷文晁（ブランチョウ）」の花鳥山水の襖絵など数々ありますと説明なされ一つ一つ拝見することができ、非常に有意義であった。間もなく日暮れとなり館山寺温泉「さざなみ館」に宿をとり湯船につかり今日の疲れを癒した。

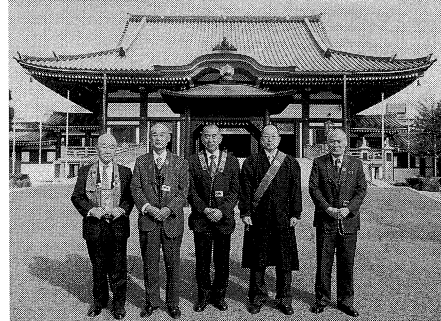
第二日目は七時半朝食八時半出発で一路名古屋に向かった。日泰寺の参拝である。山門を入ると正面に大きな本堂がそびえている。鉄筋コンクリート作りではあるが、掃除がゆきといて、実に清々しい。一行は本堂で般若心経となえ、役僧の説明を聞く。

一八九八年ネパールの南境に近いインドでイギリスの駐在官ウィリアム・ベツペが古墳の発掘中ひとつの骨を納めた壺を発見しよく調べてみると「この世尊なる仏陀の舍利瓶は釈迦族が兄弟姉妹妻子とともに心の心をもつて安置したてまつるものである」と記されていた。当時釈尊は地上に実在したものでないという見方が一般であったが、この発掘で釈尊の実在は立証された。その後インド政府はこの舍利瓶を仏教国のタイ王国王より日本国民への贈り物にされた。

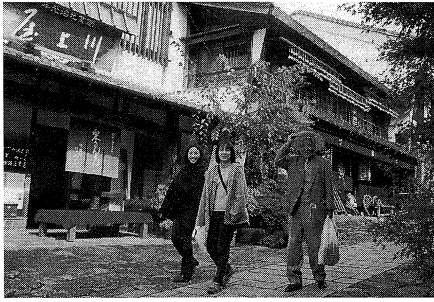
そこで日本仏教各宗管長の受け入れ要請があつて明治三十二年六月にバンコク王宮にて親しく御真骨を拝受し、仏骨奉安の寺院を超宗派で建立することをお約束すると、一、二千年を経た釈尊金銅仏

をいただいた。その後各宗一体となつて寺院建立の地をさがしたところ、名古屋の官民一体となつて誘致運動をし、現在の地に十萬坪の土地を用意し明治三十七年に釈尊を表す、寛王、山号とし、日タイの有効を象徴する日泰寺を寺号としてお寺が誕生したわけである。この寺は日本仏教徒全体の寺院であり、いずれの宗派にも属さない単立の寺院で一九九派の管長が輪番制により三年交代で住職を勤めている。

さて、今日の天候は晴れ、風が少々寒い、境内のイチョウが黄色く色づいている日泰寺を十時に出発し一路「荒子観音寺」に向かった。



バスに揺れること約三十分、到着した「荒子観音寺」は浄海山円龍院観音寺といふ天台宗のお寺です。歴史は古く奈良時代、聖武天皇の天平元年に泰澄和尚によって開基されました。本尊は泰澄和尚の自作と言われております。その



馬籠

後戦乱にあつて寺勢は衰えました
が、談義所として僧徒の学問所と
して盛んになりました。
天文五年賢俊上人によつて多宝
塔が再建されました。この多宝塔
は名古屋市内で最も古い木造建築
で国の指定重要文化財となつてい
ます。織田氏が尾張を統一しよう
としていた永祿年間に堂宇が整い
ましたが、火災で消失してしま
いました。今、テレビでお馴染みの
前田又左衛門利家が天正四年に本
堂を再建しました。その後幾度か
の火災にあいましたが、そのつど
再建されました。

そして、現在の本堂は平成九年
に再建されピカピカの本堂でお参
りができました。昭和二十七年、天
台宗から独立し単立寺院となつて
います。観音寺に伝えられる円空
仏数千体は明暦年間に円空上人が
彫られ納められたと言われ大変有
名です。

十一時四十分名古屋城近くの「ふ
じやホテル」で昼食、名古屋コー

チン焼きで 十二時五十分名
古屋城に向かった。
名古屋城は関ヶ原の合戦後江戸
幕府を開いた徳川家康が慶長十四
年に江戸と大阪への備えとして作
城した代表的な平城です。明治維
新までは徳川御三家の居城として
栄えていました。昭和二十年の名
古屋空襲のさいほとんど焼しま
したが、三つの門と本丸御殿障壁
面の大部分は重要文化財として現
在に伝えられています。名古屋城
で有名なのは金鯱です。これは室
町時代火除けの呪いでありました
が、後に大棟に飾られ名古屋のシ
ンボルとなりました。しかし、第
二次世界大戦で天守閣と運命を共
にしましたが、昭和三十四年十月に
天守閣とともに再建され今その姿
を見ることが出来ます。

午後二時三十分名古屋を後にし
て中央高速に乗り昼神温泉へと旅
だつた。午後四時ごろ今夜の宿ホ
テル「桂川」に到着、感じのいい
お風呂で疲れをいやし、最後の晩
とあつてカラオケ等で宴会は盛會
で皆さん笑顔がこぼれていました。
翌日朝八時に宿を出発、紅葉の山
道を上り途中で漬物店にたちより
皆さん「のさわ菜」等おみやげを
買い、さらに山道を進み「木地師」
の里で木工製品の見学…。

その後、島崎藤村のふるさと摩
籠に向かい、中山道の古い宿場を
見学しのおのおの買い物をしたり
して、五平ダンゴや信州ソバなど
信州名物の昼食をいただき、中央
高速で諏訪湖を左に、また富士山
を右にみながら夕方五時ごろ横浜



保土ヶ谷旭区仏教会・同奉賛会「仏跡参拝」三浦七福神 2002.

支部だより

文責 玄野

駅西口に到着、みなさん心地よく
帰宅されました。今回は皆さんの
心がけがよいせいか三日間一滴の
雨の心配もなく、とてもすばらし
く、心に残る旅でした。横浜市仏
教連合会では毎回趣向をこらして
仏跡参拝旅行を計画しています。
今回も三十そこそこの若い女性方
が参加、協力をいただきました。
ぜひ次回からのみなさんご参
加をよろしくお願いします。

●保土ヶ谷・旭区●

保土ヶ谷・旭区仏教会及び、同
仏教奉讃会では、平成十四年度、
秋季仏跡参拝に、平成十四年十一
月十五日(金)三浦七福神の妙音
寺様に参拝致しました。ご本堂内
にて、細川秀純区仏教会長、細野
充孝仏教奉讃会長の挨拶があり、
妙音寺の和尚様が七福神の由緒を
説明してくださいました。その後、三
浦にてマグロの兜焼昼食をいた
き帰路に着く。



区仏教会・同奉賛会「...」於、保土ヶ谷、日蓮宗樹源寺

又、十二月三日(火)には、日

蓮宗樹源寺様に於て、区仏教会、
同奉讃会主催による「釈尊成道會
が一四〇名の参加のもとに勤修さ
れました。そのあと、エッセイス
ト佐々木久千先生の講演を拝聴し、
堂内にてケンチン汁とお弁当をい
ただき実り多い成道会となりました。
そして、十二月十九日(木)
には保土ヶ谷駅前、相鉄天王町駅
前、二俣川駅前の三ヶ所にて托鉢
を行ない、その浄財の全額を神奈
川新聞厚生文化事業団に寄託致し
ました。今年度も充実した仏教会
でした。

●栄区●

阪神淡路大震災も今年で八年目
を迎えました。
私の関係している全日本仏教青
年会でも、加盟団体の(株)神戸青年
仏教徒会(神戸J.B)協力のもと、
慰霊行事が行なわれ、私も参加し
てきました。

まれ、十七日朝にはJR鷹取駅
JR兵庫駅まで、被害の大きかつ
た長田区内を中心に慰霊行脚を行
い、最後に神戸J.B会長の自坊福
厳禅寺様をお借りして慰霊法要を
営みました。

この行脚には数年前から参加し
ていますが、市内の状況は一見復
興しているように見えても、昨今
の不況もあつてか表通りから一、
二本奥へ入ると、空地や荒地も未
だに目につく状況が残っています。

栄区仏教会でも、毎年一月十七
日には本郷台駅前で托鉢募金活動
を行い、震災遺児を支援している
レインボーハウスに寄付しています。
多くの生命が犠牲になった震災
の記憶を風化させない為にもこ
ういった活動を継続していくこと
が大切なのではと感じています。

●瀬谷区●

十月二十八日、泉慰霊堂奉仕当
番が近づいてきましたので、出仕
の打合せその他の件で会所宗川寺
で総会を開催。前回の奉仕から三
年余り経過していますので、法要
の式に落ち度のないよう綿密な打
合せをしました。当区仏には以前
から慣例の方式が作られています
ので、十一月五日の泉慰霊堂戦没
者追悼法要にはこの方式でつづが
なくお勤めさせていただきます。

一月二十八日には、当区仏の研
修会で今年創建七五〇年を迎える
古刹の大本山建長寺を拝観。今回
は長天寺住職三田裕道師特別のお
取計により、一般参拝者は絶対
に立ち入れない境内聖域の諸拝殿
建物等を師が懇切に案内してくだ



さいました。特にまだ一般公開されていらない法堂の日本画家小泉淳作画伯の画かれた龍の天井画を拝観させていただき、迫力ある雄大な面龍図に、暫し一同圧倒されてしまいました。帰りには建長寺ご長老師さまの懇ろなおもてなしを受け、更に記念品まで賜り感動と感激の大変貴重な一日を過ごさせていただきました。二月十四日、第二十八回涅槃会に出席。余談ですが二月十四日のカレンダーには聖バレンタインデー。二月十五日の涅槃会は残念ながら余白になっていました。念の為。

● 泉区 ●

三月二十五日に、全日本仏教会推薦の劇、「釈迦内転唱」の公演を泉区仏教会が地域に呼びかけていずみ中央駅のテアトルフォンテで

実施いたしました。この劇は、希望舞台という劇団が、地方の小劇場や寺院などで身近なふれ合いを重視して、人間愛や人権尊重を訴えるもので、東北のとある町の火葬業を営む家族の物語です。およそ三百名の入場者は、熱演に感動した様子で、準備の苦勞が報われた思いでした。

歳末理事会報告

平成十四年十二月六日(金)の午後五時より、中区の「筑葉」で市仏連理事會が開かれた。約二十名が出席された。玄野孝善副会長が開会を宣した。都築哲信副会長が挨拶を述べられ、林田眞成専務理事の司會進行で次の諸案件が話し合われた。

- ▼第二十八回釈尊涅槃会の件。担当の栄区仏会長般若院星野英秀住職と同区仏副会長の長光寺菅原紹雄住職が説明をされた。
- ▼平成十五年度の総会は五月二十三日(金・友引)に中区西有寺様で開催の予定。
- ▼林田専務理事が秋の仏跡参拝の事を報告された。十一月十九日、二十一日まで、静岡・名古屋・屋神温泉・馬籠・中央道・河口湖・横浜と三十六名の参加を得て二泊三日の方広寺・日泰寺・荒子観音と充実した法悦に浴した参拝バス旅行であった、と。
- ▼平成十五年度の春の仏跡参拝旅行を六月九日(月・友引)に行う。ピーエス観光の真川氏が説明。千葉県の本土(日蓮宗)アジサ

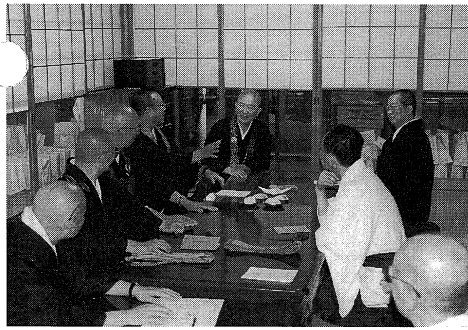
イの花の名所。26番札所の清滝寺(真言宗)方面への参拝企画である。(注)今年に入り行き先が一部変更になった。清滝寺をやめて東京の西新井大師へ参詣する。▼上大岡慰霊堂出仕の予定の当番区仏名と月日が発表された。▼時局対策委員長の佐藤功岳師の報告。九月三十日のネットワーク構想説明会に五十余名の参加があった。その後の會員寺への葬祭ネットワーク参加の是非を問うたところ、九十ヶ寺から賛同の色よい返事があつた。大変心強く思つた。仏教会が一般市民へ存在感を強く与え、影響を及ぼすことができたいと思つている。

事務日誌

- 14.10.11 涅槃会打合案内発送
- 14.10.15 慰霊堂依頼状発送
- 14.10.17 総持寺大道禪師晋山
- 14.11.6 三役会議(勸行寺)
- 14.11.9 忘年会案内発送
- 14.11.18 弔電 金沢区宝蔵院
- 14.11.19 秋の仏跡旅行
- 14.11.21 静岡・名古屋・長野方面涅槃会打合般若院
- 14.12.26 諸役員会議(筑葉)
- 14.12.4 市仏だより原稿依頼
- 14.12.6 理事会・忘年会(筑葉)
- 14.12.10 名誉会長推戴依頼
- 14.12.10 秋山智謙師會計補依頼
- 15.1.15 涅槃会案内発送
- 15.1.27 葬儀ネット会議(大円寺)
- 15.1.30 奉讃会だより発送
- 15.2.3 弔電 旭区正円寺
- 15.2.14 28回涅槃会(般若院)

▼会長、他役員任期満了に伴う改選のため、選考委員会を発足。
▼若い僧侶を役員に登与し活性化を図る方針の一環として、會計補佐に瀬谷区の日蓮宗妙光寺住職秋山智謙師を依頼し内諾を得た。
▼大本山総持寺様に趣き、新名譽會長就任委嘱状をお渡しする。
▼顧問弁護士の遠藤隆也氏より一言挨拶を頂戴した。「某寺院の事例、葬儀を菩提寺でせず、納骨にだけ来たので拒否したところ、永代使用料を返せと訴えられた」。添葉をいただき、ご芳名を報告した。會計担当の橋下賢明師。六時より納会。会食し懇親の時を過した。

雑中沢山



- 15.3.9 役員選考委員会(崎陽軒)
- 15.3.14 慰霊堂依頼状発送
- 15.3.15 弔電 西区東福寺
- 15.3.29 会報編集会議(東泉寺)

編集後記

◎平成十四年十二月に環境破壊防止条例が発動され、野焼きやダイオキシン無排出設備でない簡易焼却炉使用の全面禁止が全国規模で施行となった。消防署に問い合わせると、原則禁止であるが法律違反としての罰則規定は無い。近隣からの苦情、抗議があれば、自地での焼却は即刻中止しなければならぬとの見解であった。墓地の供花、古塔婆、落葉、剪定の樹木の後始末が、今までのように焼却処理ができなくなり、事業ゴミとして費用を払って出さなければならぬ。墓地のゴミ箱の除去や、各寺院住職も頭の痛い問題である。

◎葬儀ネットワーク構想に百寺ほどが参加を予定されているとの時局対策委員会の報告があつた。往古は寺院が社会的貢献の数多くの機能を持っていた。しかし、現在、寺院・僧侶ができるのは滅罪としては葬儀年忌法事のみである。その葬儀も指示進行は葬祭業者の手に委ねられ、我々は通夜の四十分、葬儀の四十分ほどしか必要とされてないのではないかと自問自答し、自虐に苛まれる。檀信徒が僧侶に何を期待するのか。我ら僧侶にできることは、一に掃除、二に掃除、三、四が無くて五に掃除の生活である。浄財は浄地(智)に返す。お布施は個人使用せず、寺門興隆に使う。某老師の言葉がやけに心に染みるのである。